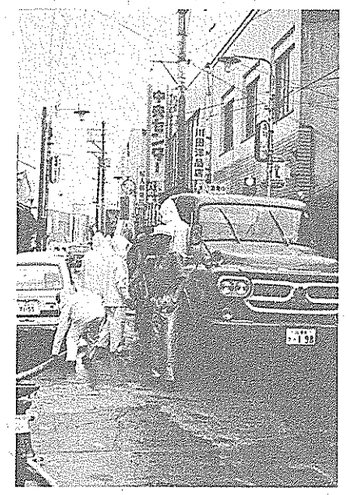
幸せを明日 つなぐ火の始末



▲後免商店街で消火訓練

火災シーズン

わが家の 防火点検を

今年も、十一月二十六日から十二月二日までの七日間、「幸せを明日につなぐ火の始末」を統一標語に、秋の火災予防運動が行なわれました。

家庭では、ホームコタツや暖房用ストーブが使われる季節です。ホームコタツや暖房用ストーブは、年々改良が加えられ、危険度は少なくなっているものの、やはり使用法を誤まると危険です。

火災の通報は 一一九番へ

十二月から三月頃にかけて、最も火災の多くなるシーズンです。火の元には十分気をつけ、外出時や就寝前には必ずもう一度火の元の点検をしましょう。

南国市の場合、火災の時まちがって一一〇番すると、一度、県警本部（高知市）に入り、その後南国警察より消防署に通報されます。そのため、南国市内の小字などがわからないことが多分にあります。火災は、最初の五分間が大切といわれます。必ず一一九番で場所と燃えている物をはっきり知らせてください。南国市内で電話が高知局の場合は〇八八八六―三一三五一一番へ。

ことし、市内では一月から十月末までに二千二件の火災が発生し三千二百五十六万円の財産が灰になりました。昨年の同じ時期に比べて件数で十四件少なくなっているものの、損害額で一千三百五十九万円も多くなっています。

これらの火災を種類別に見てみますと、建物十六件、林野三件、車輌一件、その他二件。

通報別では、一一九番十九件、警察一件、その他二件。

原因別では、火遊び三件、たばこ二件、電気関係一件、石油ストーブ一件、放火三件、ガスコンロ四件、風呂かまど一件、バーナー三件、火入れのとび火一件、たき火一件、不明一件となっています。

▶出そめ式で（大湊小）

◀ロープをつたって降る職員（市庁舎）

◀消火器の使い方を―。市役所で。

暖房器具は 安全ですか

多くの家庭で石油ストーブが使われていますが、使い方をあやまると危険です。次のことに注意してください。

▷燃焼中の給油は厳禁
▷こぼれた油はすぐふきとる
▷燃焼中の移動は危険
▷ストーブの上や近くに洗たくものを干さない
▷ときどき部屋の換気を

電気器具は 大丈夫ですか

電気器具は、最近、便利な生活必需品として各家庭に普及しています。使用する時は、説明書をよく読んで正しく使いましょう。

▷いたんだコードは危険
▷一つの電源からのタコ足配線は危険
▷間違った使い方は危険
▷しろうと工事は危険
▷使い終ったらスイッチを切り、コンセントから差しこみを抜く

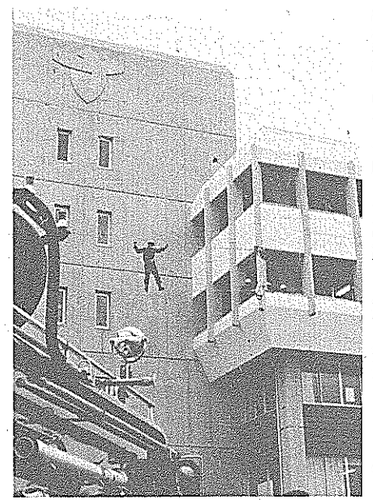
ガスもれは ありませんか

家庭で使うプロパンガスも取り扱いに十分注意しないと、ガスがもれて爆発することがあります。正しい使い方を知って、安全に利用しましょう。

▷ゴム管は十分さしこんで安全バンドを
▷長いゴム管は事故のもと
▷燃えやすいものを近づけない
▷使い終れば、必ず元コックをしめる
▷ガスの使用中は、その場をはなれない

火災に備える 十の注意

①老人や子供は、火災発生のとき外に逃げられるよう安全な場所に寝かせる。
②出入口のそばには物をおかないこと。避難のじゃまになるだけでなく延焼の原因にもなります。
③老人・子供だけをおいて外出しないこと。やむを得ないときは、隣近所に頼んでおく。
④二階以上の場合は、ロープ一本でも避難器具を備えておく。
⑤寝たばこは絶対に禁物。特に酒を飲んだ後などでは焼死するおそれがあります。
⑥火災が発生した場合、一番おそろしいのは煙です。姿勢を低くぬれ手ぬぐいなどで口をおおい避難してください。
⑦いったん外に避難したら絶対家の中にもどらないこと。
⑧消化器など備えることはもちろんだが、ふだんより訓練で、その使い方を体でおぼえておく。
⑨避難口はできるだけ一方でなく二方へ設けておく。
⑩「自分の家だけは大丈夫」という安心感は禁物。ちょっとした不注意で大事な財産は灰になります。



▲レインジャー部隊の訓練

◀福祉センターで救助袋を使って避難訓練

消防力と 消防体制

三十六名の消防職員は、市民の生命と安全なくらしを守るため、市内十二分団と連絡のもとにいつでも協力体制がとれるようになっており、また日頃の訓練で万全のかまえをとっています。

また、消火に大きな働きをするポンプ車二台（分団に十八台）指令車一台をはじめ救急車二台、広報車一台を配備し、防火・救急活動にあたっています。

▶救助袋の使い方を習う 福祉センターで